

本社：大阪府枚方市南中振3丁目5-1
TEL：072-834-2221
従業員数：220名（グループ全体・パートタイマー含む）
（2024年4月現在）
創業：1965年2月 設立：1974年7月
主な事業内容：作業服・ユニフォーム・白衣・各種作業用品・各種介護用品等小売、縫製・加工、レンタルクリーニング事業等
資本金：2,200万円
売上高：64億円（2024年度実績）



JOB INFORMATION

正社員募集

「おっちゃんとおばちゃん」の求人広告を見て応募です」とお伝えください。



【給与】大学卒237,000円（固定残業代含む）※基本給：209,000円・短大卒229,000円（固定残業代含む）※基本給：209,000円・昇給年1回・賞与年2回

【勤務地】

■販売職：大阪府・京都府・奈良県下の店舗
■営業職：本社（大阪府枚方市）・南大阪支店（大阪市西成区）

【勤務時間】

■販売職：シフト制、実働時間（1日）8時間～12時間・年間総労働時間：2,286時間（備考：6:30～15:30（実働8時間・休憩1時間）、11:30～20:30（実働8時間・休憩1時間）、シフトによっては週に1度6:30～20:30（実働12時間・休憩2時間）あり）
■営業職：固定時間制・標準労働時間制8:30～17:30（休憩：1時間）

【休日】

■販売職：週休2日制・有給休暇10日（※入社後すぐに10日を付与します。）・休暇制度（年末年始休暇、慶弔休暇、産前・産後休暇、育児休暇、介護休暇）
■営業職：日曜・祝日（※月に1日程度、会社カレンダーによる土曜出勤あり）年間休日116日・有給休暇10日（※入社後すぐに10日を付与します。）・休暇制度（GW休暇、夏季休暇、年末年始休暇、慶弔休暇、産前・産後休暇、育児休暇、介護休暇）

【福利厚生】社会保険（健康保険・厚生年金・雇用保険、労働災害補償保険（労災））・退職金制度・従業員持ち株制度・再雇用制度・資格取得支援制度・トレーナー制度・生活応援一時金制度・会員制宿泊施設の利用制度

【連絡先】☎072-834-2221（人事総務部 西村）
E-mail:jinji@tamayura.co.jp

新卒採用を目的とした広報活動は、その年の内閣府提示の日程に準じます（例・広報活動開始は卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降）。「在学中のみなさんが今年生なのか」に応じて、時期によりお伝えすべき情報は変わります。詳細は採用担当に直接お問合せください。

皆で協力すれば夢が叶う。良いことを地道に続ける大切さを学びました。



楽しみながら作業をする、TAMAYURA 岡本明さんと学生たち。

値を知り、意気投合。「ヨシをアパレル商品にする」プロジェクトを開始し、商品化に成功した。
2025年の大阪・関西万博では、TAMAYURAのヨシを使ったスタッフユニフォームの帽子が採用された（下記参照）。また、世界的デザイナー・コシノジュンコ氏もヨシに注目。サステナブルなスーツをデザインし、海外発信に向けて準備中だという。
琵琶湖から世界へ。ヨシプロジェクトは、地球規模で躍進中だ。

ヨシを繊維にして着る循環

ヨシが衣類になるには①ヨシを刈る ②1年かけて乾燥 ③繊維を取り出し撚糸 ④生地加工

と意外に手間がかかる。だが、天然由来で軽く

て丈夫、抗菌消臭に優れている。こうした地域

型SDGsから大阪・関西万博のユニフォーム・

帽子にも採用。使用後は回収し、糸に戻して再

利用するなど、地域資源活用・廃棄ゼロの循環

型社会の実現に力を入れている。

「ヨシ生地」で作られた、大阪・関西万博の運営スタッフが着用したユニフォームの帽子。生地の原料の35%がヨシで、耐久性にも優れている。



「ヨシの文化を守り、環境に貢献する皆さんの1歩を、世界へ発信したい」と、TAMAYURA代表取締役社長 岡本 哲さん。



イベントレポート

株式会社TAMAYURAの

琵琶湖

ヨシ刈りから見える風景

刈ったヨシ



編集部 吳 玲奈

TAMAYURA 人事総務部 西村 貞明さん

京都産業大学 経済学部 2年 北南さん

京都産業大学 経済学部 2年 貝谷さん

京都大学 文学部 4年 廣瀬さん

TAMAYURA 取締役 法人営業本部 営業企画室 室長 岡本 明さん

←7年前に30人で始めた「びわこ高島の葦(ヨシ)を守る会」活動のフラッグ。「TAMAYURAさんとの出会い、想像を超える規模になりました」と会長の中村正博さんは話す。

小学校のときの草刈りを思い出しました。環境貢献に加わってうれしいです。



活動の様子。ヨシは成長時のCO2吸収と酸素生成、土や水中の窒素・リン吸収など水質浄化保全と温暖化防止に寄与している。

2025年12月、滋賀・高島で実施された「ヨシ刈りイベント」。地元住民など100人以上が集まり、京都の大学生3人と編集部も参加した。
イネ科の植物、ヨシは1年で3メートルにもなる。参加者は「びわ湖高島の葦を守る会」の会員が刈ったヨシを拾い集め、束ねて運ぶ。ヨシに似たアシが混ざらないよう見分け、ぬかるみを歩くのはかなりの重労働。ベテラン

ヨシ刈りに100人が参加

大阪・枚方市のTAMAYURAは、1965年創業のユニフォーム・仕事着の専門商社だ。「毎日をより良く、より楽しく」をモットーに、動きやすく、おしゃれなワークウェアを提供。全国で45万着ものユニフォームや白衣を販売し、航空や鉄道など大手のユニフォームにも採用されている。そのTAMAYURAは数年前から琵琶湖のヨシ刈りに参加。それには、実は深い理由があった。



腰をかがめてヨシを集め、ぬかるんだ沼地を歩く。慣れない作業に筋肉痛!の声も。

を真似て、徐々に学生も上手に集められるようになり、完了時は晴れやかな笑顔になった。

万博から世界へ広がる循環の輪

琵琶湖畔のヨシは長年、よしずや茅ぶき屋根に利用されてきたが、需要減少とともに放置され、琵琶湖や淀川の水質悪化を招き、野焼き処理をすればCO2排出という問題が生じていた。
一方で、刈り取ったヨシから新芽が出れば、成長時にCO2を取り込む植物の習性を活かせる。多様な情報から新しい活路を模索する地元有志に、話を聞いたTAMAYURAが、その価

地元愛にあふれ、自分たちで湖をきれいにする姿がカッコよかったです。